

6-3			
主題	排泄ケアにおいて緑茶を使用した陰部洗浄による消臭効果と殺菌効果について		
副題	驚くべき緑茶効果～利用者、介護職員共に気持ち良く過ごすために～		
キーワード1	排泄ケア	キーワード2	陰部洗浄
研究期間	12ヶ月		
法人名	社会福祉法人 賛育会		
事業所名	第二清風園		
発表者	大久保 志麻、小泉 佳織、松崎 里菜	アドバイザー	排泄委員会
共同研究者：石原 佳織、小林 優子			
電話	042-736-6906	FAX	042-736-6903.
今回発表の事業所やサービスの紹介	開設は平成9年4月、町田市薬師台にある複合型施設。特養100床、ショート30床、デイサービス50名定員、認知症デイ12名定員、その他に居宅介護支援事業所、高齢者支援センター、東京シニア円滑入居賃貸住宅を併設。近所には同一法人の施設があり、特養の他に診療所、訪問看護、訪問介護の事業を有する。		
<p>《1. 研究前の状況と課題》</p> <ul style="list-style-type: none"> 研究前の状況 施設内での排泄介助の際の臭気についての意見が利用者のご家族や職員からあがっていた。 また、皮膚トラブルが続いていた為、その改善策として緑茶による陰部洗浄が候補にあがった。 課題 排泄介助において、パットの選定と陰部洗浄は必須である。その目的とは、 ① 皮膚を清潔にして気分を爽快にする ② 尿路感染の予防 ③ 消臭 ④ 皮膚トラブルの改善である。 洗浄には通常、ぬるま湯を使用するが、それでは効果があまり見られなかった。 		<p>《2. 研究の目的ならびに仮説》</p> <ul style="list-style-type: none"> 研究目的 賛育会病院にて緑茶を使用する陰部洗浄における効果についての論文が発表され、オムツかぶれや感染予防に効果が出ていることが実証されている。 また、プリストールスケールを導入し、便の形状を職員内共通の認識と記録実施。そして、上期・下期各1回(年2回)、尿量測定を行い、利用者にあったパットの選定と排尿量、排尿パターンの把握を行なう。 仮説 オムツかぶれや感染予防、また、臭いの軽減に改善が見られることを期待し、毎排泄介助に殺菌効果のある緑茶にて陰部洗浄を行った。 	

《3. 具体的な取り組みの内容》

- ① 陰部洗浄対象者
※ベッド上にて陰部洗浄を行う方
一般フロア 36名中18名
認知症フロア 60名中15名
※ブリストールスケール、尿量測定は各フロアの定時トイレ案内、定時パット交換を行う利用者に行なう。
- ② 取り組みの具体的な手法
 - ・ブリストールスケールを導入
 - ・上期、下期に1回ずつ、1週間尿量測定を行なう。
 - ・カンファレンスの際、排泄アセスメントの作成
 - ・排泄介助の際、陰部洗浄に緑茶を使用する。
- ③ 取り組みの時間や期間
2014年6月～現在
尿量測定→毎年(年2回)
- ④ 取り組みの手順
 - ・ブリストールスケールで利用者の排便形質を把握。また、尿量測定を行ない利用者に合ったパットの選定。
 - ・緑茶による陰部洗浄は一般フロア、認知症フロアの対象利用者に継続して実施。また、緑茶を使用した陰部洗浄に関して職員へアンケート実施。
- ⑤ 取り組んだ職員や構成
排泄委員会を中心に④の取り組みを実施し、緑茶による陰部洗浄の殺菌効果や消臭効果についてのアンケート記入。
- ⑥ 部署間の連携
排泄介助、皮膚状態の観察…介護課
皮膚状態の観察、処置…看護課
- ⑦ 必要とした道具や費用
 - ・陰洗ボトル
 - ・緑茶
- ⑧ 活動の成果を出すポイントになった点
排便形状の把握、尿量測定、緑茶を使用することによって、皮膚トラブルの改善、消臭効果が実感された。
- ⑨ 取り組みへの施設のバックアップ体制
緑茶や陰洗ボトルなどの必要物品の購入。

《4. 取り組みの結果》

緑茶消臭効果、殺菌効果、排便・排尿パターンの把握により、褥瘡や皮剥けが早期に回復したとの意見あり。

★アンケートの結果

33名中17名が効果あったとの回答あり。

《5. 考察、まとめ》

・まとめ

ブリストールスケール、尿量測定、1年以上緑茶による陰部洗浄を続けた結果、殺菌効果、消臭効果があることが分かった。リトマス試験紙で実験を行い、緑茶は中性、時間が経って尿で湿っているオムツがアルカリ性であり、緑茶で洗浄を行うと肌が中性になる。肌の状態はアルカリ性から中性になることにより、赤みが軽減されることが実証された。

褥瘡は、深いものであれば完治までに数ヶ月～1年の期間を要するが、当施設で褥瘡のある利用者に緑茶による陰洗を実施した結果、1ヶ月2週間で完治した例がある。

・考察

消臭効果については他の施設で多くは立証されていないが、本研究では確実に軽減されているという結果が出た。

今後、更に効果的な陰部洗浄の方法を模索していく。

《6. 倫理的配慮に関する事項》

今回の研究を行うにあたり、ご本人(ご家族)に口頭にて確認をし、本研究以外では使用しない事、それにより不利益を被ることはないことを説明し、回答をもって同意を得たこととした。

《7. 参考文献》

- ・施設内で行ったアンケート
- ・緑茶による陰部洗浄を行った頃からの施設内の記録
- ・賛育会病院の論文

《8. 提案と発信》

排泄介助における臭気と皮膚トラブルの軽減の対策として緑茶による陰部洗浄は効果が出ると考えられる。

ブリストールスケールにて便の形状の把握や、年2回の尿量測定は、個別排泄ケアを実施するための有力な情報となり、お一人お一人に合った排泄ケアを提供することができると考えられる。